

花岡 秀教授退職記念号発刊に際して

2015年3月をもって、花岡秀教授は関西学院大学文学部をご退職されることになりました。花岡先生は、関西学院大学文学部英文学科および同文学研究科英文学専攻を卒業・修了されました。1984年に関西学院大学経済学部にご着任され、その後1995年に文学部英文学科教授に就任されました。長い人生の半分以上を関学と共に歩んでこられたこととなります。教員として在籍された31年間の間、教育と研究に尽くされ、また学部内外の様々な場面で重要な役割を果たして下さいました。そして何より私たちのよき友人として、時には真剣にアドバイスを下さり、また時にはお酒を酌み交わしながら冗談を言い、またある時には人生について、研究について、熱く語って下さいました。このたび、ご定年まで3年を残しご退職されることになり、ただただ残念で淋しい思いでいっぱいです。これまで関学英文の発展にご尽力され、私たちをご指導下さったことを感謝し、ここに『英米文学』第59巻1号を花岡秀教授のご退職記念号として刊行し、献呈申し上げます。

花岡教授は、アメリカの南部文学、とりわけウィリアム・フォークナーの高度に複雑な文学世界を様々な独創的な切り口で研究してこられました。とりわけ『ウィリアム・フォークナー短篇集－空間構造をめぐって』では、従来の時間軸を基準とした研究に対し、フォークナー文学に置ける空間構造の重要性を読み取り、精緻な議論を尽くされました。またアメリカの銃社会、タバコ、そしてとりわけご自身もお好きなお酒に関して、多くの論文を世に発表されています。

教育面では、文学という学問における指導に留まらず、学生の声に耳を傾けてこられました。その際花岡先生は、よく「大人」という言葉をお使いになりました。「大人」であるとはどういうことか、ご自身の体験を平易な言葉で語って下さいました。また大学院教育においては、博士論文の指導を通じ、大学に専任職をもつ多くの研究者を育ててこられました。そのことはこの記念号に投稿された論文にも表れています。

今後は、これまで以上に自由に研究に興味に没頭し、そしてこれまでにな
い新たな場面でもご活躍されることを心より祈念し、退職記念号に寄せる言
葉といたします。

2015年1月20日

英米文学会会長
英米文学英語学専修代表

楠 本 紀代美